

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：県立南紀はまゆう支援学校

校長名：小 原 美佐香

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・児童生徒の発達の段階や障害の特性等に基づき、個々の教育的ニーズに対応した指導・支援を行うとともに、保護者や地域の期待に応え信頼され、地域における特別支援教育の専門性を生かしたセンター的機能を担う学校。

・自立と社会参加を目指し、仲間や、支援者、地域の人々とともに心ゆたかにたくましくいきいきと生きる児童生徒

学校評価の公表方法

・本校ホームページにて公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月10日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加を実現するための授業を実践する。	C	学部研修や研究授業を通して授業改善に取り組む。	学部研修と授業づくりを連携し授業改善を行う。	B	外部講師を招聘し、全校研修を実施した。研究授業を行い、協議会を通して授業改善に取り組んだ。	次年度も継続して、研究授業を実施し、授業改善につなげる。初任者の校内研修体制の定着を図り、若手教員や特別支援教育の経験の少ない教員を含めた研修の充実に取り組む。専門的知識を有する教員の全部門への支援体制を整える。
			初任者の研修体制を整え、若手教員の授業力の向上を図る。	授業力を高めるための研修の充実を図る。	B	拠点校指導員を中心とした校内体制を整え、各分掌部と連携し基礎研修の充実を図った。	
			自立活動の指導の充実を図る。	専門的知識を有する教員の支援に基づき授業を実践する。	A	水治訓練室での授業実践や給食指導等で自立活動の指導の充実を図った。	
2	児童生徒の健康の増進及び学校安全の徹底を図る。	C	ヒヤリハット、アクシデント情報を共有し未然防止に努める。	事故の状況と原因を把握し職朝を活用し迅速に周知する。	B	職朝で迅速に周知を図ることができた。人権感覚チェックシートを作成し児童生徒への対応に活用した。	各担当が所管しているマニュアルを学校全体で保管し、年度当初に周知徹底を図る。児童生徒の障害特性に配慮した指導支援を行うために、人権感覚チェックシートを継続して活用する。医療的ケアについて、全教職員で理解するよう年度当初に研修を行う。
			安全に医療的ケア等を実施する取組を整える。	定期的に委員会を行い、外部機関とも連携し検証する。	B	関係機関と連携し教員のミキサー食の注入を安全に進めることができた。	
			災害時の対応や防災教育の充実に取り組む。	計画的、組織的に全校での訓練を行う。	B	外部の専門家の助言により、各種マニュアルの検証を行うことができた。	
3	地域に根ざした学校として、特別支援教育のセンター的機能を充実させる。	C	校区内の学校と連携し、特別支援教育の理解を進める。	各校のニーズに応じた情報提供や研修を行う。	A	来校相談、巡回相談（114回）に対応し校区内で4回の研修支援を行った。	マンスリータイムや支援だよりを積極的にＨＰに掲載し、情報発信に努める。きこえとことば、みえ方相談会は、充実してきているので、さらに定着を図る。夏季研修会、教育相談を活用し特別支援教育のセンター的機能を発揮する。
			HPや各種配布物を通して地域に発信する。	年間15回以上の情報発信の機会を設定する。	C	マンスリータイム、支援だよりをＨＰに12回掲載し、発信した。	
			4校連携における聴覚支援体制の確立を図る。	きこえとことば・見え方相談会や教育相談の充実を図る。	A	きこえとことば、みえかた相談会では、31件の相談に対応した。	
4	地域と連携し、協働できる取組を推進し、学習活動の充実を図る。	B	地域の人材を外部講師として招聘する。	地域の外部講師を年間3回以上招聘する。	A	進路学習、教科指導で年間28回地域の方を外部講師として招聘した。	地域の外部講師による授業により児童生徒の学習活動が充実してきている。今後も継続して、年間指導計画に位置づけて実施する。学校運営協議会では、引き続き各分掌長と連携して具体的な取組を進める。
			学校課題の解決を図るため、学校運営協議会と協働する。	校内の組織と連携し、効果的な児童生徒の支援を行う。	B	現場実習先の拡大や防災安全部と連携したマニュアルの検証等実施できた。	
			地域と連携・協働した学習活動に計画的に取り組む。	地域との連携を深め、体験的な学習活動を広げる。	B	高等部作業学習を中心に、地域と連携した学習活動を進めている。	

学校関係者評価（2月10日実施）

○災害時の対応、防災教育においては、今後も地域の防災士の方に火災、地震訓練を見学していただき様々な視点でのアドバイスをもとに定期的にマニュアルの見直しや災害伝言ダイヤルの活用方法の検討を進めていきたい。また備蓄物品、発電機、医療的ケア等の物品の点検を定期的に行うことが必要である。

○学校からの情報発信の一つとして、マチコミメールの効果的な活用を探っていきたい。

○ミキサー食の注入等の医療的ケアの実施内容や4校連携における聴覚支援体制について具体的なイメージを持つことが難しかった。今後、見学する機会を設定し、肢体不自由教育部門や聴覚障害教育部門についての理解を深めていく必要がある。

○基幹相談センターと連携し田辺市庁舎で作業製品の展示をすることで、住民の方からの需要があることが分かった。今後、期間限定で新商品や試作品の展示を通して、作業製品の評価や地域の方が求める製品について聞き取ることが必要であると助言をいただいた。

○教科の取組の中で、森川珈琲に協力していただき商品開発や販売を行ったが、今後さらに特別支援学校について理解を図り、地域企業とどのように繋げていくかが課題である。

○各小学校、中学校、高等学校に対して、南紀はまゆう支援学校の教育課程等の理解啓発に努め、円滑に進路選択ができるようにすることが必要である。